

港湾事業 事後評価

仙台塩釜港 仙台港区中野地区 国際物流ターミナル整備事業

令和5年2月20日
国土交通省 東北地方整備局

1. 事業の目的と概要

関連SDGs



事業名	仙台塩釜港仙台港区中野地区国際物流ターミナル整備事業			事業種別	国際物流ターミナル
事業の目的	東北経済をけん引する国際拠点港湾として、増加する貨物や船舶大型化に対応した国際物流ターミナルを整備し、輸送コストの削減を図る。				
事業の概要	港名	仙台塩釜港 (仙台港区)	港格	国際拠点港湾	
	対象施設	岸壁(水深14m) 付帯施設 航路・泊地(水深14m) 泊地(水深14m) ふ頭用地	280m 1式 4.5ha 1.7ha 6.0ha		
	事業期間	平成23年度～平成29年度			
	事業費	再評価時(平成27年度): 173億円 事後評価(令和4年度): 178億円			
事業の経過	平成20年	港湾計画改訂(当該ターミナル位置付け)			
	平成23年	事業着手			
	平成29年12月	事業完了・供用開始			

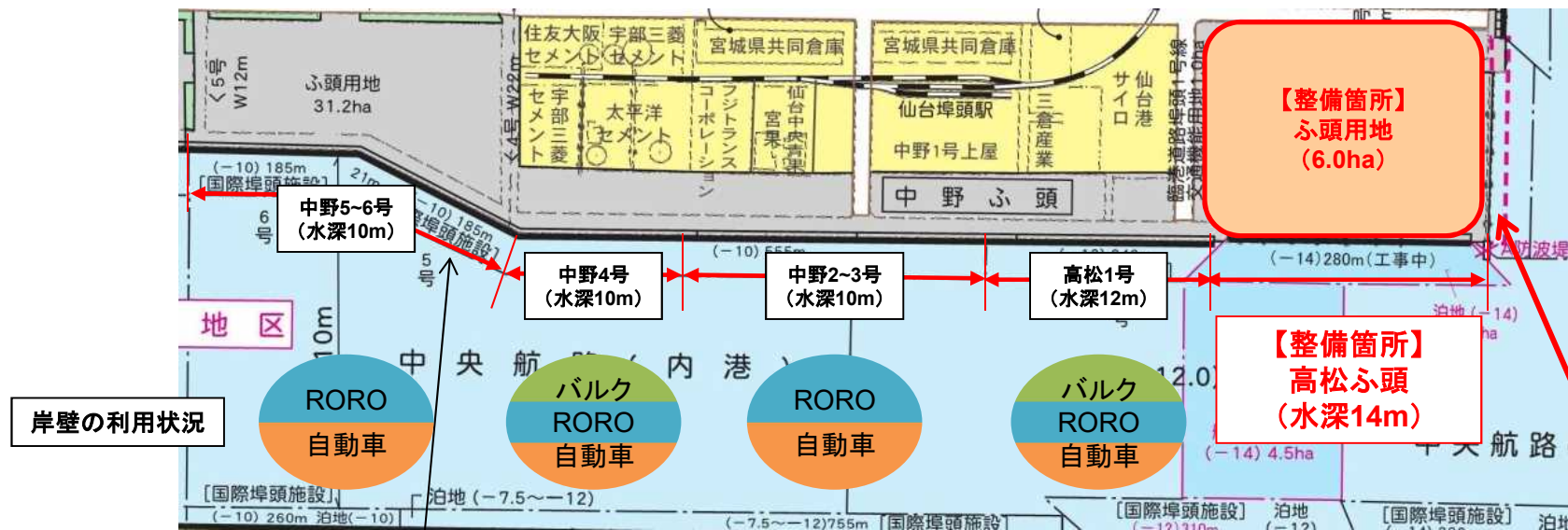
該当基準	事後評価
------	------

【事業実施位置図】

1

2. 事業の必要性

○中野ふ頭内における混雑、岸壁不足を解消することで安全かつ効率的な荷役を可能とするとともに、増加する貨物や船舶大型化に対応する。



3. 事業効果と発現状況

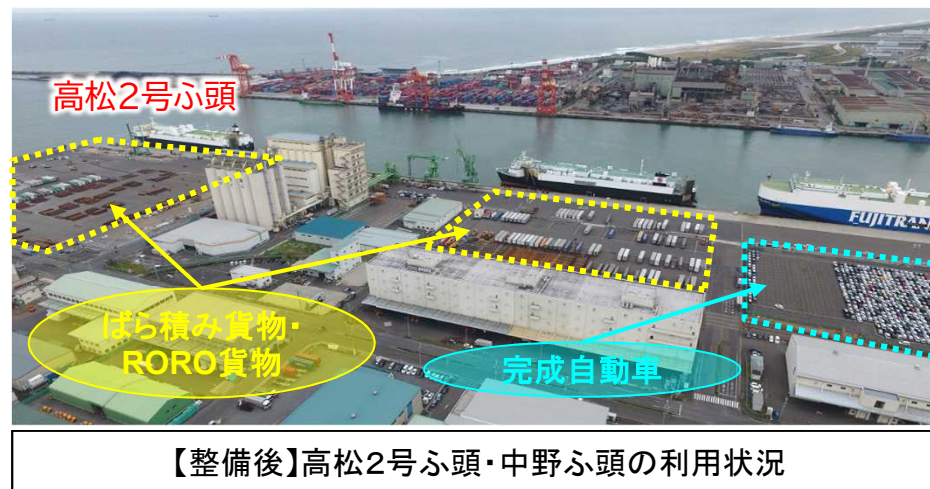
【中野ふ頭内の混雑解消】

○高松2号ふ頭の整備により、中野ふ頭の混雑が緩和し、安全かつ効率的な荷役が可能となった。

【整備前】



【整備後】

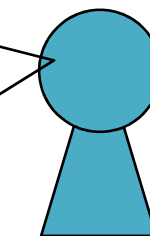


○RORO船、自動車専用船、貨物船が同時接岸かつ近接して係留し貨物を取り扱っており、同一日に複数のRORO船が利用する岸壁では、**荷役作業時間の短縮**が求められていた。

○荷役スペースが狭隘なため、自走する完成自動車やトレーラーの走行動線とクレーン荷役作業が近接しており、**危険な荷役作業**を強いられていた。

○高松2号岸壁の整備により混雑が緩和され、RORO船等の荷役にゆとりが生じ、**安全かつ効率的な荷役が可能**となった。

- ・高松2号ふ頭の整備により、混雑が緩和され、安全な荷役が可能になった。
- ・高松2号岸壁がなければ現状の貨物量を取り扱うのは難しい。



港運事業者



輻輳する中での危険な荷役作業
(中野2号ふ頭)

3. 事業効果と発現状況

【RORO船の大型化への対応】

○仙台塩釜港に定期的に寄港するRORO船は年々大型化。高松2号岸壁の整備により、14,000トン級以上のRORO船2隻の同時接岸が可能となり、運航の定時性確保及び輸送効率化に寄与。

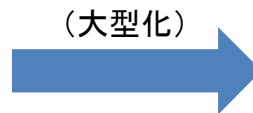


※船首索及び船尾索は、バースに対して45°としている(「港湾の施設の技術上の基準・同解説(H30.5)」)

<RORO船大型化の傾向(例)>

平成26年 時点

総トン数	13,000トン級
全長	160 m



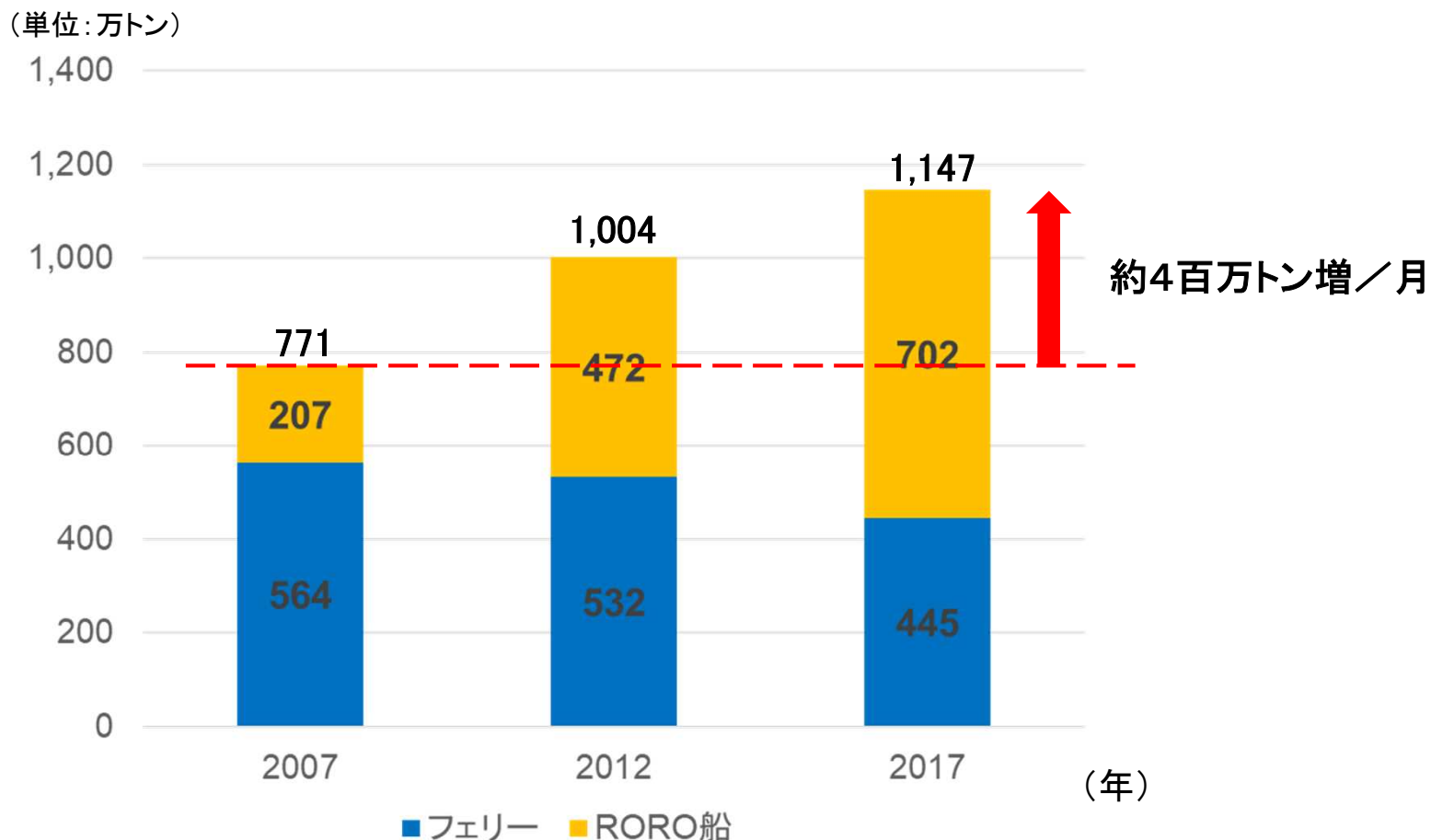
令和3年 現在

総トン数	14,000トン級
全長	175 m

3. 事業効果と発現状況

【内航フェリー・内航RORO船の輸送量の推移】

- 過去10年において、内航フェリー・内航RORO船の輸送量については、月当たり約4百万トン増加(移出入計)。(年当たり単純計算すると、約5千万トン増加)
- 今後、トラックドライバー不足や2024年度からのトラックドライバーに対する時間外労働の上限規制適用、環境規制の強化を背景に、内航海運へのモーダルシフトの流れが進むと見込まれている。



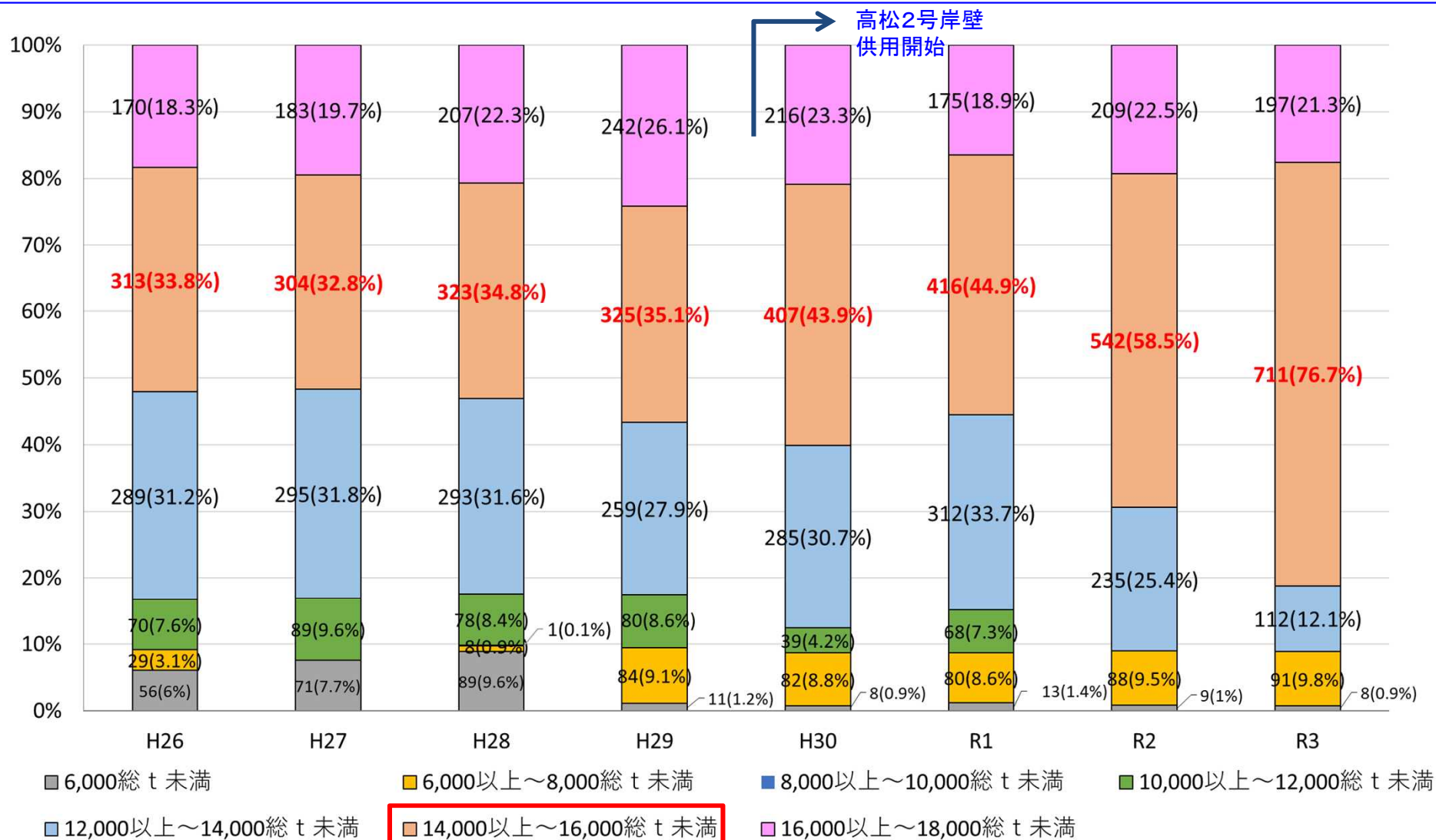
貨物量:各年11月に実施した調査結果から、11月の1ヵ月分の貨物量に拡大推計した数値を記載(移出入の合計)

出典:内貿ユニットロード調査より国土交通省港湾局作成

3. 事業効果と発現状況

【RORO船の大型化の傾向】

○中野地区(中野ふ頭+高松ふ頭)に入港するRORO船の船型は大型化している。

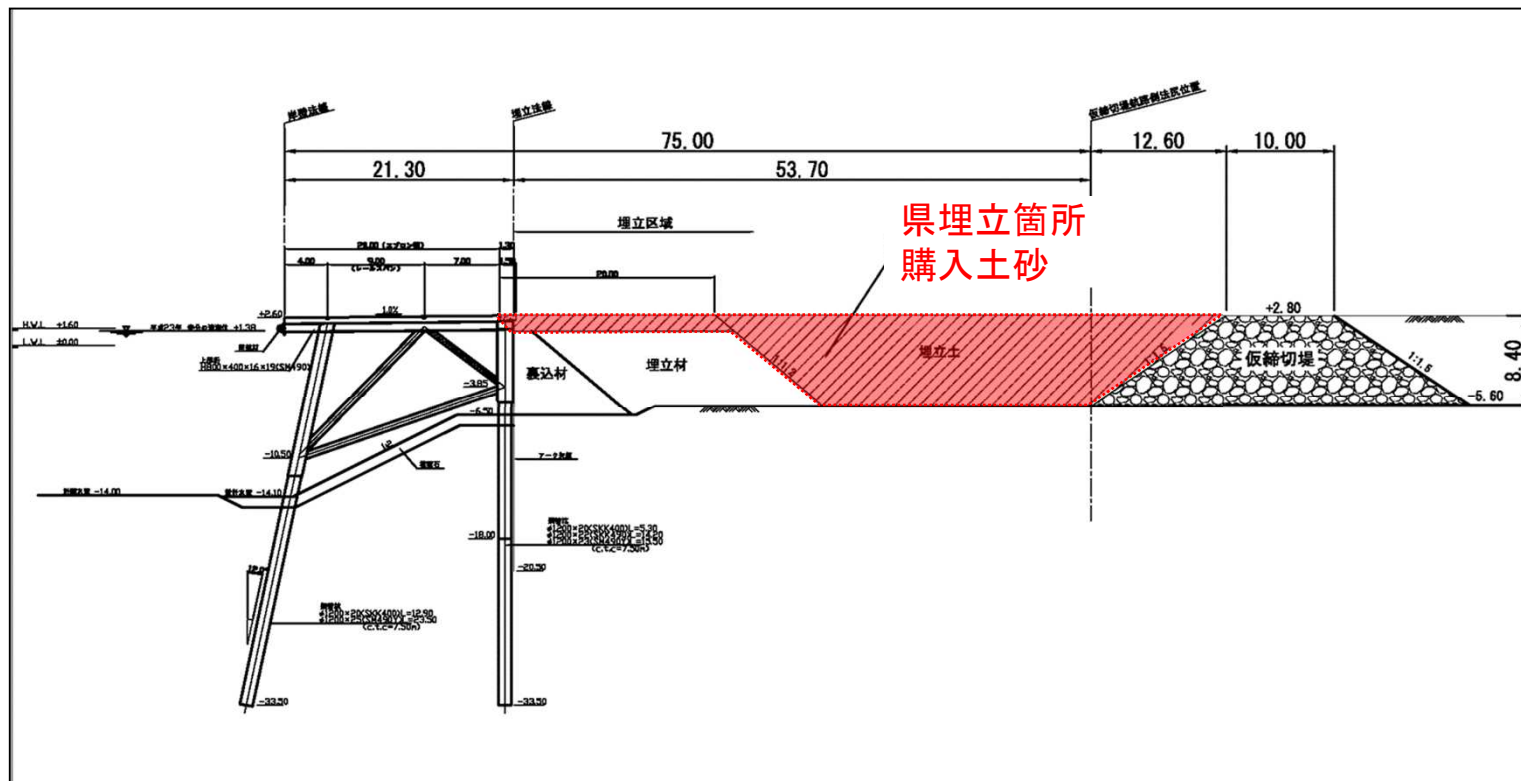


中野地区(中野ふ頭+高松ふ頭)に入港するRORO船の船型の推移

4. 事業費の変更

事業費の変更 173億円 → 178億円(5億円増)

項目	増額(億円)	概要
購入土砂増による増額	5	宮城県が実施したふ頭用地埋め立てにおいて、他事業の建設発生土砂を埋立土砂として見込んでいたが、施工時期の調整がつかず、購入土砂が必要になり増額。
合計	5	



埋立箇所(断面図)

5. 費用対効果分析 及び 算定基礎となった主要因の変化

■費用対効果分析

項目	前回評価 (平成27年度)	今回評価 (令和4年度)	増△減	備 考
事業費	173億円	178億円	5億円	購入土砂に変更したことによる増加
事業期間	H23～H29	H23～H29	—	変更なし
総便益 (貨物量)	52.1万トン	59.0万トン		・海上輸送コスト削減 5.8億円／年 (ばら積み貨物)前回評価:43.2万トン⇒今回評価:42.0万トン ・陸上輸送コスト削減 8.1億円／年 (RORO貨物)前回評価:8.9万トン⇒今回評価:17.0万トン
B/C	1.1	1.1		

6. 利用者の声

- ・高松2号ふ頭の整備により、中野ふ頭の混雑が緩和され、安全な荷役が可能になった。
- ・RORO船の大型化により中野ふ頭に2隻同時着岸が難しくなっていたが、高松2号岸壁の整備により、大型化したRORO船も2隻同時に着岸できるようになった。
- ・事業完了後のH30とR1には高松2号岸壁に18隻のクルーズ船が寄港しており、地域の観光振興にも貢献している。

7. 対応方針(案)

事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。